

平成29年度 鶴見区の主な取組みの方向性



現 状

- ・街頭犯罪の約6割を「自転車盗」が占めている。
- ・交通事故の現況として、全事故死傷者数に占めている自転車に関わる死傷者が約3割を占めている。
- ・放置自転車も含めた自転車利用者のマナーの悪化が問題視されている。

課 題

- ・街頭犯罪発生件数のさらなる減少を図る必要がある。
- ・とくに街頭犯罪の約6割を占めている「自転車盗」についての取組みを重点的に推進する必要がある。
- ・自転車のマナーアップについての取組みを推進する必要がある。

29年度の実施の方針

- ・鶴見区の街頭犯罪発生件数の減少に向け、区民、地域、関係機関、事業所などが連携・協働し、区民のより一層の防犯意識の向上につながるよう区を挙げての啓発活動を推進する。
- ・街頭犯罪の約6割を占める自転車盗について重点的に取り組む。
- ・放置自転車も含めた自転車利用者のマナー向上をはじめ、広く交通ルールが守られるよう、区内関係機関等と連携し、交通安全の普及・啓発活動に取り組む。

29年度の実施の方針

- 【地域・関係機関と連携した防犯対策事業】
- ・防犯推進委員会を中心に、各地域団体・関係機関が連携した区内一斉防犯活動 12地域
- ・区役所・警察署・各地域防犯組織（青色防犯パトロール隊、子ども見守り隊、防犯推進委員）による合同連絡会の実施 1回
- ・自転車の2重ロックを推進するため、鍵の取付けキャンペーンの実施 12回
- ・防犯カメラの設置 30台
- ・防犯カメラ表示物の掲示
- 【地域・関係機関と連携した交通安全対策事業】
- ・子育て層への交通安全教室の実施 12回
- ・高齢者への交通安全研修会の実施 1回
- ・園児への交通安全教室の実施 4回
- ・警察署、区内の学生と協働した自転車マナーアップキャンペーンの実施 4回
- ・スケアード・ストレート方式による交通安全学習 2回

現 状

- ・ 地域における自主防災の取組みについて地域格差が生じている。
- ・ 区役所は災害時に災害対策本部として中核を担うこととなるが、装備品等十分な体制がとれていない。

課 題

- ・ 区全体の防災力の強化を図るためには、自主防災活動における地域格差解消が不可欠であり、訓練の実施について積極的に働きかけるとともに災害時の中核を担う区災害対策本部と地域防災組織等との連携・強化を図る必要がある。
- ・ 区災害対策本部の機能強化と質的向上。

29年度の取組みの方向性

- ・ 区民、地域、区役所、関係機関、学校等が連携した訓練などを通じて区全体の危機管理対応能力を向上させる。
- ・ 地域の自主防災力の強化とそのための支援を行う。
- ・ 自主防災組織による自助・共助の視点を盛り込んだ防災活動が活発に行われるための仕組みづくり、支援を行う。
- ・ 区災害対策本部の充実に向けた研修及び装備品の購入

29年度考えられる取組み

- ・ 地域の自主防災力強化のため、住民・関係機関（三師会等）と連携した訓練等を行う。
- ・ 避難所開設運営訓練の実施 1 2 地域
- ・ 鶴見区震災訓練～安全・安心フェスタ～の実施 1 回
- ・ つるみんピックの開催 1 回
- ・ 区職員への実働的な訓練の実施

今後の鶴見区運営方針・予算のスケジュール

平成28年				平成29年	
9月下旬	11月初旬	11月中旬	12月初旬	2月中下旬	3月下旬
鶴見区主な事業の取組の方向性の説明 (各部会)	鶴見区運営方針(素案)についての 説明及び意見聴取 (各部会)	鶴見区運営方針(素案)作成 予算要求調書提出	鶴見区運営方針(素案)に対する 各部会での報告及び意見聴取 (全体会)	鶴見区運営方針(素案) 予算(案)説明 (全体会)	市会で審議 鶴見区運営方針 予算確定